

就職内定報告 2018

現代文化学部
国際ファッション文化学科 **4**年

映画・舞台衣装デザイナーコース

千葉県／佐倉東高等学校 出身

内定企業

チャコット株式会社／技術職

事業内容：バレエ・ダンス用品、コスメティック用品、その他ウェア・シューズ製造・販売、ダンススタジオ経営、衣裳レンタル など



BUNKAに入学した理由

元々バレエを習っていたため、バレエを中心にした舞台衣装にはとても興味がありました。高校も服飾デザイン科で、服の製作が大好きだったので、進学を考えたときにはもちろん服飾関係の大学を希望。BUNKAのことは知っていましたが、高校2年生の時に国際ファッション文化学科の「卒業イベント」を観て、大好きなバレエ衣装の製作をしていることや、それを演じているのが学科の学生ということを知り、「自分が勉強したい場所はここだ」とBUNKAに入学することを決めました。

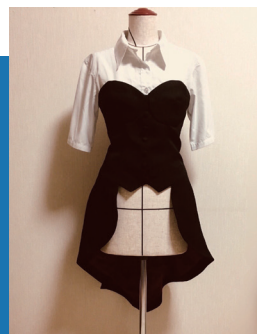
充実感いっぱいの4年間

服飾の知識はあったものの、大学の授業ではまた別の視点や技術が必要でしたので、1・2年生で基礎を勉強し、3年生から分かれるコースで学ぶ衣装製作に関する専門知識や技術は、とても自分に合っていました。国際ファッション文化学科では、作品の製作だけでなく3年生のファッションショーや4年生の卒業イベントと、学習成果をいろいろな方に観ていただく機会も多いことが特長で、それがとても良い経験になっています。特に卒業イベントは、いわゆるファッションショーとは異なり、舞台演出のあるパフォーマンスを取り入れたファッションの総合表現ステージ。ファッションを勉強していなくても楽しめるので、毎年様々な方が観に来てくださいます。このイベントで私は1体分のアクター（主要登場人物）衣装を一人で製作し、4年間の集大成としてとてもやりがいを感じました。また、バレエ経験を活かしてダンサーとしても1年生の時からずっと参加することができ、とても充実した学生生活でした。



インターンシップで職種への視野が広がった

デザインをすることよりも、衣装として「カタチ」にすることの方が好きだったため、将来は縫製職に就きたいと考えていました。インターンシップでは、実際の舞台衣装製作現場を知ることができたことで衣装製作への関心は大きく高まりましたが、業界の内容や詳細を知ることにより、就職で何が大切なのかを考えるキッカケになりました。それまでは職種へのこだわりが強かったのですが、視野を広くして就職活動を考えるようになり、バレエ衣装などを手掛けるチャコット(株)を受験。主にデザイン・パターン業務に携わる技術職で内定をいただきました。インターンシップで自分のこだわりとそれを実現できる可能性を広げられたこと、またプレゼンテーションの精度を上げたことが内定に結び付いたものと思っています。



自作品のプレゼンテーションとして面接に持参した、「コスチューム制作演習」で制作したベアトップドレス。指定課題以外に制作したジャケットも持参して、積極性と技術力をアピール。



文化学園大学ホームページ
<https://bwu.bunka.ac.jp/>